

主題構成表	主題名	周りの人々	資料名	すもうの先生
-------	-----	-------	-----	--------

**■ 内容項目2-(4)**  
 尊敬 感謝  
 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。

**■ 児童の実態**  
 3・4年生の複式学級で、3年生男子1名女子1名。4年生は男子1名、女子2名の計5名の学級である。  
 3年生の2名は祖父母と一緒に生活をしている。4年生は3名とも祖父母とは別に生活をしている。  
 児童の半数以上はバス通学で、毎日市営の公共バスを利用している。運転手さんが、自分たちの安全を考えて、全員が席に着くまで停車したまま待っていてくださるなど、安全に気を配ってくれていることを、気づくことができず、心から感謝することができない子もいる。  
 本校は極少数人数で、運動会や栽培活動、収穫祭など様々な活動で保護者や地域の人々の支援を受けている。しかし、児童はそれが当たり前と感じ、多くの人々に支えられていることを意識せず、感謝の気持ちを持ち、それを表現することを忘れがちである。

**■ 価値の分析**  
 人はだれでも、一人では生きていけない。互いに支え合って生活していることはいうまでもない。ところが、日々の生活を当たり前のように過ごし、互いに尊敬や感謝の気持ちを示すに至らないことが多い。  
 世に目立って業績をあげた人や、優れた記録を残した人、珍しいことができる人などに尊敬の目が向きがちである。目立たないところで、苦労や努力を重ねている人々によって、わたしたちの生活が支えられていることに気づかせ、尊敬や感謝の気持ちで接する態度を養うことを本授業でねらいとしている。  
 荒城小学校での、多くの行事が父母や地域の人々の支えによるものであることを、感じ取ることができ、感謝の気持ちでバスの運転手さんや地域の人々に接していこうとする態度を養う。

**■ 資料の分析**  
 毎週日曜日の朝、あきらは兄や近所の子どもたちとすもうのけいこをしている。先生は、近所で工場をやっているおじさんである。  
 けいこがすんだ午後、あきらは兄と本屋に行く途中に、忙しそうに働くすもうの先生を見た。日曜日は仕事がやみなので教えてくれているのではなく、仕事の合間を見て教えてくれていることに気づき、先生に対し尊敬と感謝の気持ちがわきあがってくる。  
 この資料は、3つの場面に分けてあきらの気持ちに共感するように進める。

**■ ねらい**  
 多くの人々に支えられて生活していることに気づき、尊敬し感謝しようとする態度を養う。

**■ 展開の構想**

- ・自分たちが生活していく中で、どんな人たちにお世話になっているか考え、発表する。
- ・資料を読み、あきらくんがすもうの練習のときどんなことを考えているのかについて話し合う。
- ・先生が忙しい中自分たちのためにすもうを教えに来てくれていること知り、感謝の気持ちを持ち「ありがとう。」を行動で表現する素晴らしさに気づく。
- ・自分たちは普段周囲の人々に世話になっていることを再確認し、その人たちに感謝しているかを振りかえり、これからどうするとよいのかを考える。

**■ 基本発問(◎中心発問)**

- 毎日の生活の中で、どんな人たちにお世話になっていますか。
- すもうの先生とけいこをして、あきらくんはどんなことを考えているんだろう。
- ◎あきらくんはどんなことを考えて自分から「先生、こんにちは。けさはありがとうございます。」と声をかけたのだろうか。
- みんなは、どんな人にどんな感謝の気持ちをもっていますか。